

令和5年度 日本橋中学校 自己評価報告書

学校名：中央区立日本橋中学校 所在地：中央区東日本橋1丁目10番1号

校長名：平野 雅仁 生徒数 392名 学級数 12学級 教員数21名 職員数26名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 「確かな学力の定着と向上」

評価指標① 「『わかった』『できた』の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を身に付けさせていますか」

→ 肯定的な回答 生徒 86.9% 保護者 75.2% 教員 100%

評価指標② 「個に応じた指導やタブレット端末の活用を通して、基礎的・基本的な学力を身に付けさせていますか」

→ 肯定的な回答 生徒 84.6% 保護者 89.8% 教員 100%

学習の中で、「わかった」「できた」という実感を約85%以上の生徒がもつことができます。しかし、昨年度より1、2の項目において肯定的な回答が減りました。(項目1 生徒2.1%減少 保護者2.8%減少 項目2 保護者4.9%減少 生徒0.4%減少)まず1に関しては、昨年度より進めている「主体的対話的な深い学び」を目指した「話し合い活動」において、意欲が低い生徒への教員からのアプローチや、授業の中で基礎基本や要点を押える取組が弱くなっている点が考えられます。特に1、2年生において、基礎基本や要点を押えることをこれまで以上に強化し、一人一人の学力の定着に確実に近づけていきたいと思っております。今年度 Qubena での ICT を活用した個別最適化の学習を目指しましたが、来年度はよりの確かな教材の配信を目指し、一人一人の習熟度に合わせたドリルを提供するソフト、「ドリルパーク」を活用し、わからなかったところを集中的に学習します。教師は、このドリルパークで、リアルタイムで生徒の取組状況を把握できるため、つまづいている生徒への指導を行うことで弱点を克服させ、基礎基本の定着に努めていきたいと考えています。また、一斉課題として単元の振り返りを宿題ドリルとして取り組み、単元テストを実施します。また、端末を持ち帰った際にも ICT 活用した学習の機会が広がるようにさらに指導をし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせていきたいと思っております。

重点目標2 「豊かな人間性の育成」

評価指標① 「話し合い活動や命と心の授業等の機会を通して、多様な価値や生命の大切さを考えさせることができますか」

→ 肯定的な回答 生徒 89.8% 保護者 84.6% 教員 100%

評価指標② 「あいさつ、エコキャップ回収、委員会活動等を通して、集団生活のルール、社会貢献やボランティア精神が身に付いていますか」

→ 肯定的な回答 生徒 79.6% 保護者 82.9% 教員 100%

全教育活動の中で、より強く、多様な価値や生命の大切さを考えさせる道徳や授業等、学校生活の様々な場面で意識していきたいと思っております。そして、毎年開催している道徳地区公開講座に、より多くの保護者の方にご参観していただき、学校での取組を周知できるように努めてまいります。

2の項目に関しては、社会貢献やボランティア精神の育成のために生徒会活動を活性化し、生徒会が中心となってボランティア活動を検討し、これまで以上に全校生徒が主体的に、自

分以外の他と共に協働し、自らの心を働かせ、行動する姿を目指していきます。

重点目標3 「心身の健康の増進」

評価指標①「学習発表会（運動の部）等を通して、運動への興味・関心を高め、健康の保持・増進を図ることができていますか」

→ 肯定的な回答 生徒 87.0% 保護者 88.4% 教員 100%

評価指標②「職業調べ、進路説明会、未来につなぐ生き方講演会等を通して、自らの生き方や将来を考える機会となっていますか」

→ 肯定的な回答 生徒 88.4% 保護者 84.3% 教員 100%

ほぼ通常に近い形で「学習発表会運動の部」を実施することができ、多くの子供たちから、充実感や達成感を感じていることがうかがえました。しかし、それが質問にあるように、健康の保持・増進を図ることにつながるかといえ、質問に対する答えにくさを感じる部分があるとのことがありました。来年度は質問内容を工夫しようと思います。また、オリンピックの機運を維持し、子供たちに国際感覚やボランティア精神の育成を目指す「東京 2020 レガシー」としては、ベトナムの生徒との交流をおこないましたが、ベトナム生徒の来校日程が学習発表会運動の部と重なってしまったため、生徒との交流には至らず、ベトナム交流体験生が学習発表会運動の部を見学し、全校生徒に紹介をするのみとなりました。来年度は生徒との交流が実現できるよう取り組んでまいります。また、自らの生き方や将来を考える機会とし、今年度は1・2年生において職場体験学習を行うことができました。また「未来につなぐ生き方講演会」では、体操金メダリストの水鳥寿思さんのご講演をいただき、「自己指導能力の育成」につながるお話をいただき、どちらも生徒達のいきいきとした、未来に向けての感想があり、自らの生き方や将来を考える機会となったと感じております。これらを、保護者の方にしっかりと周知をしていくことにも来年度力をいれていきたいと考えています。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を超えた項目（20 項目中 9 項目）

- ④学校は学習や生徒の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。(86%)
- ⑤生徒は明るく生き生きと学校生活を送っている。(85%)
- ⑦生徒は集団生活のルールなど規範意識が高く、思いやりの心が育っている。(82.9%)
- ⑪学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。(85.6%)
- ⑬学校は生徒の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。(83.2%)
- ⑭学校は行事などを通して生徒の学習の様子や生活がわかるようにしている。(89.1%)
- ⑮学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。(89.5%)
- ⑲学校は、保護者が教育活動（面談、行事）に参加しやすいように工夫している。(84.6%)
- ⑳教職員の保護者に対する言葉遣いや、対応は親切丁寧である。(94.8%)

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を満たなかった項目（20 項目中 11 項目）

- ①学校は学習内容がわかりやすくても工夫された授業をしている。
(64.7% 昨年度比-10.8%)
- ②学校は個に応じた指導を行い、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。
(66.8% 昨年度比-2.2%)
- ③学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。

(73.4% 昨年度比－3.2%)

⑥学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。(76.5% 昨年度比－4.9%)

⑧生徒は地域の行事やボランティア活動などに進んで参加している。

(57.7% 昨年度比－7.8%)

⑨学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で生徒の指導にあたっている。

(79% 昨年度比－6.8%)

⑩学校は生徒の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。(69.9% 昨年度比－5.3%)

⑫学校は地域や家庭との連携や協力体制を十分にとり、地域の学校として機能している。

(79.3% 昨年度比－1.7%)

⑯学校はタブレット端末を十分活用している。(72.4% 昨年度比－4.5%)

⑰学校は図書室や蔵書の充実を努めている。(59.4% 昨年度比－3.6%)

⑱保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。(66.1% 昨年度比－2.2%)

3 今後の改善方策

(1) 基礎・基本の学力の定着

日本橋中学校の「話し合い活動」を展開する中で、要点や基礎・基本を押えることを強化し、子どもたちが「わかった」「できた」の楽しさを感じられる授業改善をしていきます。また、それらを学力の定着につなげていくために、タブレットを有効活用し、ドリルパークにおいて、個別最適な学びを展開し、基礎・基本の学力の定着を図っていきたいと考えています。

(2) 「自己指導能力」を高め、「生きる力」を育む生徒指導

学習以外にも学校行事、部活動において、生徒が生き生きと活動できるよう、教員の人権意識を高め、生徒一人一人の努力を認め、励まし、温かく接していくことを目指し、生徒の「意欲」や「自己肯定感」をより高めていきたいと考えています。その中で、生徒自らが考え、自分を律する「自己指導能力」を高め、「生きる力」を育んでいきたいと思いません。

(3) 生徒会活動を活性化

生徒会活動を活性化し、「ルールメイキング」に取り組み、生徒が主体的に時代にあった学校へと自らの責任と自覚をもって学校生活をつくっていくことを目指します。

(4) キャリア教育の充実

3年間を見通したキャリア教育の充実を推進し、自己理解を深め、自らの生き方を見つめ、持続可能な社会の未来の担い手としての教育を展開してまいります。

(5) PTA との連携、情報発信

学校とPTA との連携を深め、学校運営に取り組み、保護者や地域の方にわかりやすく情報を発信し、学校の取組をより理解していただけるよう努めてまいります。